




# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン


## 2023年度3Q実績（前年同期比）


**受注高**  防衛省向け艦艇用機器の受注などがあったものの、国内向けごみ処理施設やLPG/アンモニア運搬船の減少などにより減少  
▲206 億円


**売上収益**  LPG/アンモニア運搬船を中心とした船舶海洋事業やエネルギー事業の増収などにより増収  
+219 億円

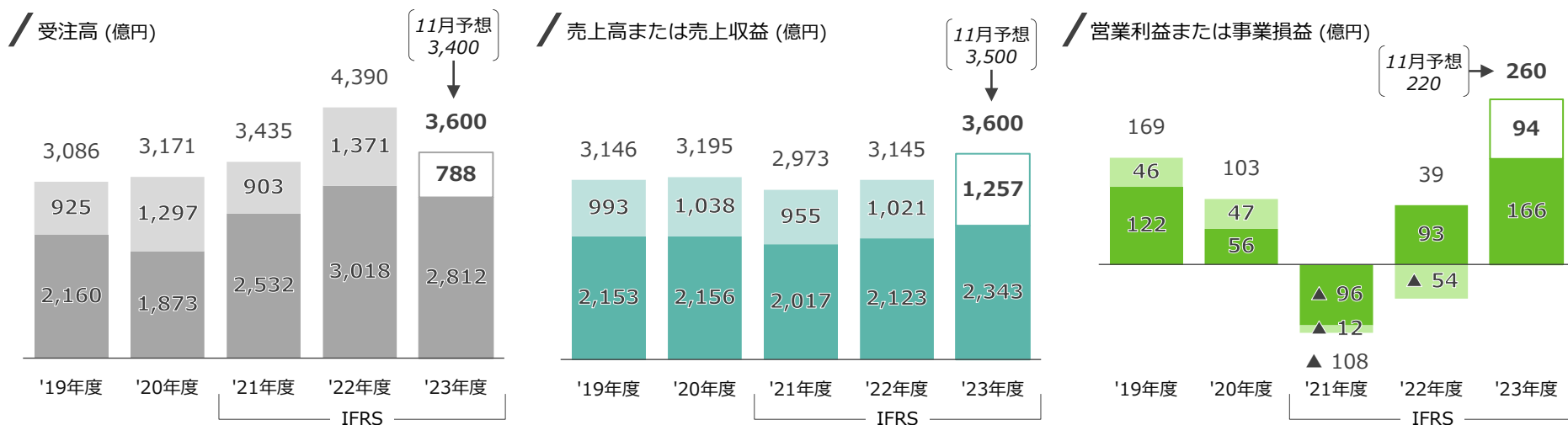
**事業利益**  増収や持分法投資利益の増加などにより増益  
+73 億円

## 2023年度予想（従来予想比）

**受注高**  国内向けごみ処理施設の増加などにより、見通しを引き上げ  
+200 億円

**売上収益**  案件進捗状況を考慮し、見通しを引き上げ  
+100 億円

**事業利益**  持分法投資利益の増加や採算性の改善などにより、見通しを引き上げ  
+40 億円



(注) グラフは濃色部が3Q累計、淡色部が4Qを表します

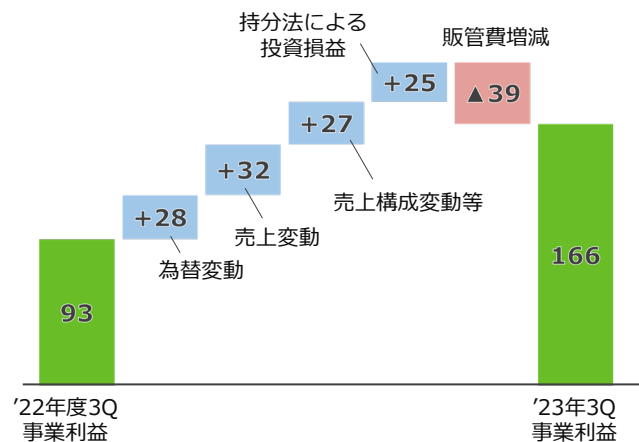
# 3

## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

(単位：億円)

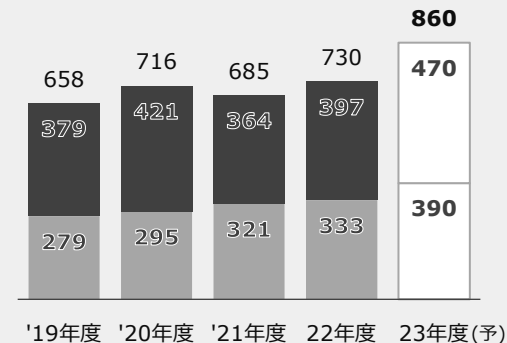
	'22年度	'23年度		'22年度	'23年度予想				
	3Q実績	3Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	4Q予想
受注高	3,018	<b>2,812</b>	▲ 206	4,390	3,400	<b>3,600</b>	▲ 790	+ 200	<b>788</b>
うち エネルギー・プラント・船用推進	2,360	<b>2,463</b>	+ 103	2,926	3,000	<b>3,200</b>	+ 274	+ 200	<b>737</b>
船舶海洋	658	<b>348</b>	▲ 309	1,463	400	<b>400</b>	▲ 1,063	-	<b>52</b>
売上収益	2,123	<b>2,343</b>	+ 219	3,145	3,500	<b>3,600</b>	+ 455	+ 100	<b>1,257</b>
うち エネルギー・プラント・船用推進	1,548	<b>1,654</b>	+ 105	2,344	2,600	<b>2,650</b>	+ 306	+ 50	<b>996</b>
船舶海洋	574	<b>688</b>	+ 114	800	900	<b>950</b>	+ 150	+ 50	<b>262</b>
事業利益	93	<b>166</b>	+ 73	39	220	<b>260</b>	+ 221	+ 40	<b>94</b>
[利益率]	[4.4%]	[7.1%]	[+ 2.7pt]	[1.2%]	[6.3%]	[7.2%]	[+ 5.9pt]	[+ 0.9pt]	[7.5%]
うち 持分法投資利益	55	<b>81</b>	+ 25	60	115	<b>130</b>	+ 70	+ 15	<b>49</b>

### 事業損益増減要因 (億円)

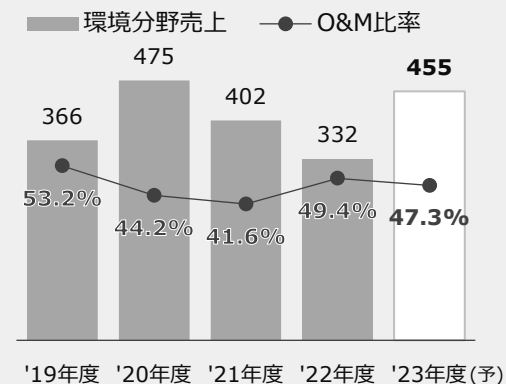


### 補足情報

エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)  
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)



プラント事業における環境分野の売上 (億円)

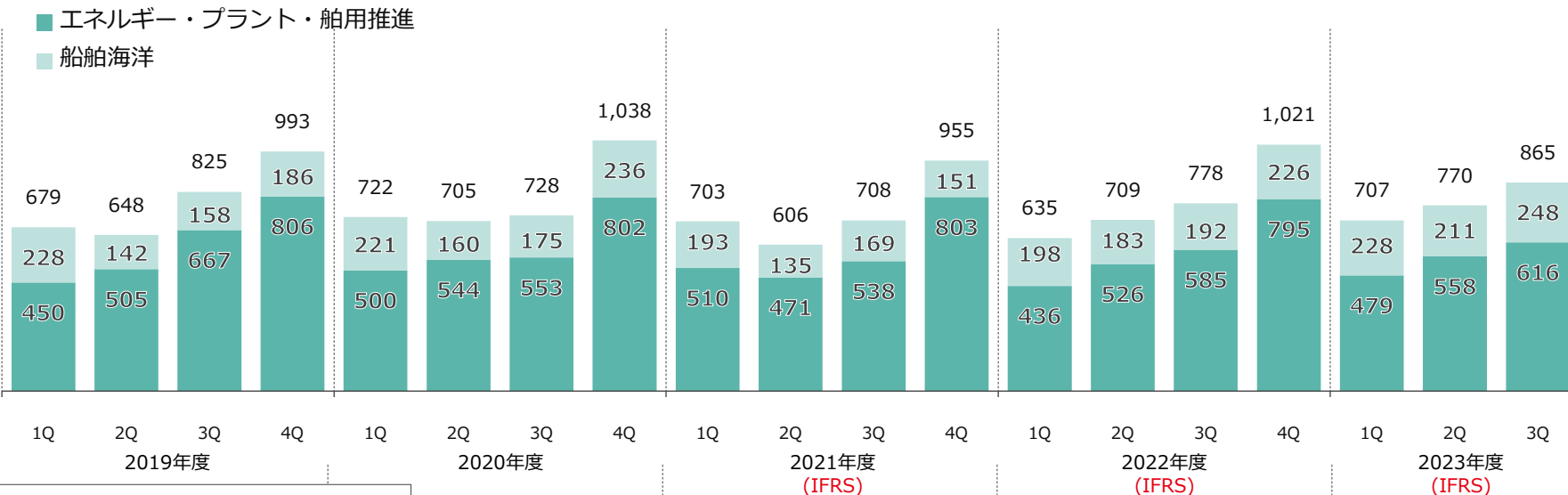


# 3

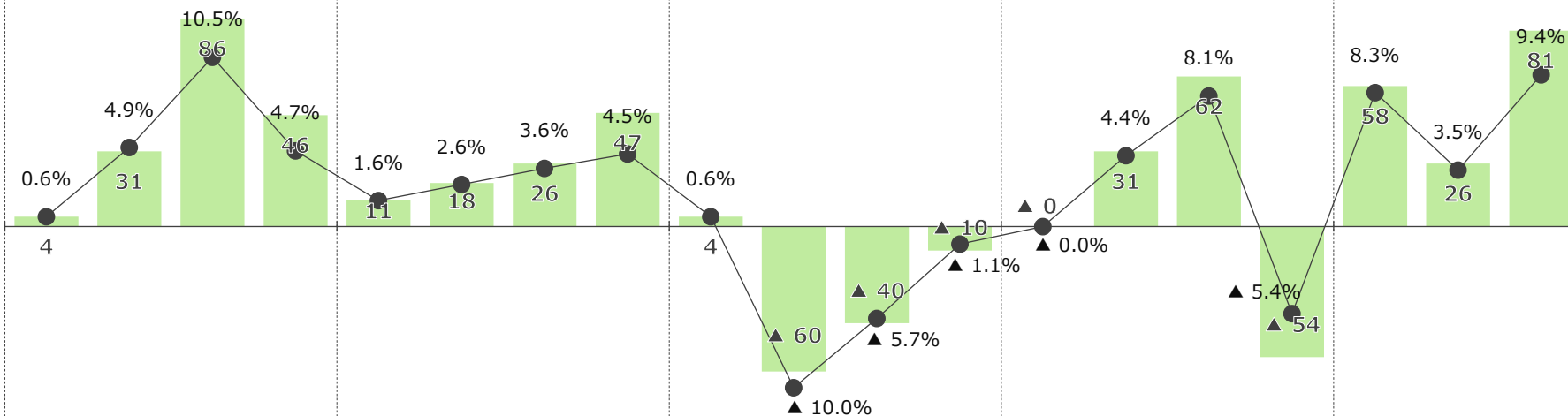
## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

四半期別 売上高または売上収益 (億円)

(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

## 事業環境・受注動向

### ● エネルギー・プラント・船用推進

国内	海外
分散型電源需要が根強く、ごみ焼却設備の老朽化更新需要が継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 新興国では分散型電源等のエネルギーインフラ整備需要が根強い</li> <li>- 先進国では水素関連の受注・引合いが増加</li> </ul>

### ● 船舶海洋

商船	艦艇・特殊船
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 船価は資機材高騰の影響を受け、高値継続傾向</li> <li>- 造船各社は当面の船台を埋めており、商談は先物納期が中心</li> </ul>	潜水艦は安定的な受注

### ● セグメント全体

リスク	カーボンニュートラル
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 発電設備の稼働に必要な燃料ガスの供給安定性</li> <li>- 原材料価格や資機材・燃料費の高止まりによる収益の圧迫を懸念</li> </ul>	当社が強みとする水素製品をはじめ、脱炭素ソリューションに関する問い合わせや協力要請が増加

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 低炭素から脱炭素へシームレスな移行を実現する製品・サービスの提供

事例 ばら積み船用ハイブリッド推進システムを納入 (23年12月)

特長1：天然ガス専焼エンジンの搭載

CO<sub>2</sub>排出量 約24%減※1

SOx/NOx排出量 大幅減※1

特長2：大容量バッテリーを組み合わせたハイブリッド推進システム

ゼロエミッション推進可能※2

※1 従来の重油焚エンジン搭載の同型船との比較

※2 入出港時の電気推進モード時

ばら積み船への搭載イメージ



ばら積み船におけるハイブリッド推進は

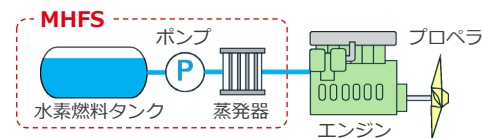
世界初

### ✓ 脱炭素ソリューションの提供へ向けた取り組み

事例 水素燃料多目的船の区画配置コンセプトについて日本海事協会から基本設計承認(AiP)を取得 (23年10月)

- 本船は、実証運航 (27年頃～) で機能・信頼性を確認予定
- 当社は水素燃料タンクおよび燃料供給システム (MHFS※) の開発・供給を担当

※Marine Hydrogen Fuel System



- ✓ 水素燃料船に必須の設備
- ✓ 水素を“つかう”分野で脱炭素へ貢献